

平成31年3月1日

群馬県立高崎女子高等学校平成30年度第71回卒業証書授与式式辞

式 辞

校内の椎の木の葉に注がれる日差しや榛名をわたる風にも、ようやく春の訪れを感じる今日、この佳き日に、ご多用の中を、同窓会長 小山八重子（こやまやえこ）様をはじめ同窓会役員の皆様、PTA 会長 原澤秀樹（はらさわひでき）様をはじめ PTA 本部役員の皆様、学校評議員をはじめとするご来賓の皆様のご臨席と多数の保護者の皆様のご列席を賜り、群馬県立高崎女子高等学校平成30年度第71回卒業証書授与式を挙行できますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与し、本日、本校を巣立つ 三一八名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。併せて、保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。今日までの3年間、保護者の皆様も卒業生と共に毎朝暗いうちに起床し、通学の準備に大変であったことと拝察いたします。しかし、本日の晴れ姿に、そのご労苦も報われ、お喜びもひとしおかと思われまふ。本当におめでとうございます。

そして、卒業生の皆さん、皆さん一人一人の努力はもちろんですが、ご家族、先生方、学校の友人・後輩など、関わってくださった数々の人々の協力・応援があって、今日を迎えることができるということも決して忘れないでください。今後、社会で活躍することで期待に応え、感謝の意を表してください。

振り返れば、高女での3年間は、濃密な時間だったことでしょう。入学当初は、少し堅苦しく感じられた、高女の真新しい制服は、時に、自分に合っているのだろうか、と自問することもあったでしょう。それは、言い換えれば、高女での学校生活への不安の表れでも、あったのかもしれません。しかし、仲間と先輩と打ち解け、日々の授業に真剣に取り組み、多くの課題をこなし、自己の目標を確立していく中で、高女での学校生活を自分のものとすることができ、それぞれが充実した高校生活となるに従い、いつの間にか、制服にきられるから、着こなす姿が変わっていったことでしょう。それはとりもなおさず、高女生になったという証でもあり、本日この式場に入場する凛とした中に、気品と自信を兼ね備えた、その姿が証明してくれていました。まさに、校訓である「向学叡智」「清楚品位」「明朗闊達」を体現した姿そのものでした。

卒業生のみなさんの様々な分野での活躍には、目を見張るものがありました。学期末の表彰伝達式では、この体育館正面に並びきれないほどの受賞者が常にあり、卒業生全員の持つ、資質と総合力の高さを示してくれました。ひとり一人がそれぞれの目標を持ち、自己の目標に向かって取り組み、分野は異なれど、互いに努力しつづけることで、結果として多くの受賞をもたらしてきたのです。目に見える結果を得られなかった場合も、あったかもしれません。しかし、互いに切磋琢磨する多くの仲間がいるからこそ、そんな高女という環境があったからこそ、より多くの活躍が生み出されたのです。ひとり一人にとっては、この環境で取り組んできたことに、大きな価値があり、その中で過ごした時間と経験に自信をもってください。

卒業生が生き抜く、これからの時代に目をやれば、悲観的な情報も少なくありません。AIの進展により、およそ50%にちかい職業が、今後なくなるであろうと言われ。少子化・高齢化の進展で社会制度や労働環境も大きく変わらざるを得ないことは、すでにご承知の通りです。しかし、歴史を振り返れば、現在以上に困難な時代は幾度もありました。明治維新もそうだったでしょう。戦後の復興期は、焼け野原の状態からのスタートだったのです。しかし、たった19年で東京オリンピックも開催しています。いつの時代にも困難はあり、日本社会は、それを乗り越えてきています。社会にも個人にも常に困難はつきものです。しかし、その困難とどう向き合うのか、その姿勢が社会では問われます。

また、私は、周囲の人に「人は、最後は人柄」とよく言います。人間関係も仕事もその本質は、相手を理解し、認めることから始まるものと、強く感じているからです。相手の良さを見だし、認めることで、実は自分の思いも認めてもらえるのです。私の伝える「人柄」には、そんな行為が含まれています。

困難に立ち向かう「姿勢」、そして「人柄」これらの資質を卒業生の皆さんは、すでに高女での学校生活を通して、充分培ってきています。それは、今年度、先生方が強く感じ、高女生の学校生活に取り組む姿から創り上げたキャッチフレーズ「認め合う」「高め合う」「全力投球」に凝縮されています。個性豊かで才能に満ちあふれた仲間の良さをお互いに認め合い、高い目標に向かって切磋琢磨し、お互いを高めあい、何事にも常に全力で取り組む。そんな仲間と共に過ごした3年間は、これからの時代に必要なこれらの資質を学校生活で培ってきていたのです。これらの資質を携え、次のステージへ自信を持って進んでください。

本日の卒業式は、平成時代、最後の卒業式となりました。卒業生の皆さんは、平成に生まれ、一番の成長期をこの時代とともに生きてきました。そして、本校を卒業し、自分の意志で臨む、新たなステージの始まりが、正に新しい時代の幕開けでもあります。高女で身につけた高い学力、高女で培った時代を切り開く資質を持ってして、これからスタートする新しい時代に自己の目標、夢の実現に向かって自信を持って臨んでください。そして、成長した姿で、是非、高女に帰って来ててください。高女も歴史を刻み、来年度120周年となります。歴史と伝統のある高女はいつまでも皆さんの帰りを待っています。

結びになりますが、本日、ご列席いただきました保護者の皆様には、三年間にわたり、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、感謝申し上げます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。また、ご多用の中をご臨席を賜りました同窓会を始めとするご来賓の皆様には、本校へのご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。

本日ここに、卒業生を送り出します3学年主任の岩井秀之（いわいひでゆき）先生をはじめ3学年団の先生方、および本校の教職員を代表して、卒業生の皆さんの今後の大いなる活躍を祈念し、卒業式の式辞といたします。

平成31年3月1日

群馬県立高崎女子高等学校 校長 須永 智